



わ い ん き

葡萄酒忌 古田晁墓参ツアー

古田晁は旧筑摩地村（現塩尻市北小野）に生まれ、1940年に人文系出版社・筑摩書房を創業しました。
このたび、古田の命日である10月30日を「葡萄酒忌（わいんき）」とし、墓参ツアーを開催します。
郷土の偉大な出版人であり、太宰治をはじめ、数多くの文豪と交流した古田の足跡をたどってみませんか。

古田晁（ふるた あきら）

1906年東筑摩郡筑摩地村（現塩尻市北小野）生まれ。1930年東京帝国大学卒業。1940年1月に筑摩書房創立。
1973年10月30日心筋梗塞のため逝去、享年67歳。



日時：2021年**10月30**日（土）

定員：20人（先着順）

〈ツアースケジュール〉

- 12:00 塩尻駅集合
- 12:13 塩尻駅発（JR中央線）
- 12:23 小野駅着、古田晁記念館まで徒歩（700m）
- 12:35 古田晁記念館着
- 12:50 古田晁、と志墓参
- 13:15 古田晁記念館観覧
- 14:45 記念館発、小野駅まで徒歩（700m）
- 15:17 小野駅発（JR中央線）
- 15:28 塩尻駅着

※自家用車等で古田晁記念館集合・解散も可能です。



申し込み方法は表面をご覧ください。

古田晁記念館文学サロン

〈第一部〉

物語が生まれるとき

八木 詠美 (2020年 太宰治賞受賞者・小説家)

1988年長野県生まれ。早稲田大学文化構想学部卒業。2020年『空芯手帳』で、第36回太宰治賞受賞。



©キッチンミノル

〈第二部〉

太宰が住んだ大宮、そして死 ～そこにいつも古田晁～

玉手 洋一 (「太宰が住んだ大宮」ホームページ管理人)

太宰治は、古田晁の誘いで名作『人間失格』を執筆するため埼玉県大宮へやってきます。2週間の滞在で無事脱稿し三鷹へ戻りましたが、その1か月後、愛人山崎富栄と玉川上水に身を投げました。それには、大宮での古田晁との関わりが大きく影響していたようです。大宮に滞在した当時の太宰治について研究する玉手洋一さんが、太宰と古田晁との関わりについて語ります。

玉手 洋一

電機メーカーのエンジニアとして勤務しながら、地元郷土史を研究。太宰治没後60年を機に、太宰が古田晁の紹介で『人間失格』執筆のために大宮に住んだ事実に着目。10年余りにわたって調査研究、新事実を次々と立証している。現在は「太宰が住んだ大宮」探索ツアーを企画し、消えゆく太宰が見た景色を地元の人や太宰ファンに伝える活動をしている。



2021年10月31日(日) 13:30-16:00 開場13:00

塩尻市市民交流センター(えんぱーく) 3階・多目的ホール
定員:60人(先着順) 参加費:無料

申込開始 10月3日(日)

本館総合カウンター、電話(0263-53-3365)、メールのいずれか。メールの場合は右記の内容をお送りください。

宛先: tosho@city.shiojiri.lg.jp
件名: 「10/31 本の寺子屋申込」
本文: 1.参加者全員の氏名(フリガナ)
2.代表者電話番号
3.お住まいの地区
4.この講演会を知ったきっかけ
5.墓参ツアーに参加するかどうか
(塩尻駅または現地集合)

郷土の偉人・古田晁を偲ぶ墓参ツアーがあります。
詳細は裏面をご覧ください。